

第 86 回紫友まち歩き

神楽坂と印刷博物館&新年会

案内人は、初めてのまち歩きの案内で、緊張しながらも、何回かの下見で自信を持って、神楽坂のまち歩きをスタートしました。雨や雪の心配もありましたが、どうにか曇り空の下で、しっとりとした初春の神楽坂の街並みの雰囲気を楽しむことができ、楽しむことができました。その後、印刷博物館で学芸員の話や VR（仮想現実）を楽しみ、太古と最新の技術を楽しむことができました。そして、新年会会場へ向かい、今年最初の懇親を深めました。

日時：2019年1月12日(土)

集合時間：14時

集合場所：JR飯田橋西口から少し離れた「牛込御門跡」

参加者：延べ22名参加

案内人：浦城信夫 0181

懇親会：水道橋「あわ美」

懇親会参加者：19名

歩いた歩数：11,200歩

<まち歩き>:

■まち歩き行程

牛込御門跡→坊ちゃんの塔→若宮八幡→小栗横丁、神楽小路→ギンレイホール→神楽坂仲通り→毘沙門天、善国寺→兵庫横丁→寺内（じない）公園→筑土八幡神社→トーハン本社ビル→印刷博物館→新年会

<スタート>

① 牛込御門跡：

14時集合。神楽坂に向かってスタートしました。信号を渡り、左に曲がり進むと東京理科大学の校舎が見えてくる。



② 坊ちゃんの塔：

東京理科大学の芝生前の五面体ペンタドロンを基本単位としたモニュメント「坊ちゃんの塔」を見学。



右に曲がると本日は休みの近代科学資料館を左に見て進む。

若宮公園付近は、江戸時代の振り袖火事以降雑木林や葦原であった牛込地区に武家に移り住み、武家屋敷中心の町が形成されたという。



③ 若宮八幡：

アグネス ホテル&アパートメントの横を通り過ぎ、若宮八幡を見学。



1189年9月、奥州・藤原泰衡を討った源頼朝が、鎌倉に戻った後、ここに鎌倉・鶴岡八幡宮の御分霊を勧請してできた歴史ある神社とのこと。

④ 小栗横丁、神楽小路：

小栗横丁へ入り、1954年創業の銭湯「熱海湯（当時は芸妓も利用していたとのこと）」などを横目で見ながら進む。神楽小路を通っていく。



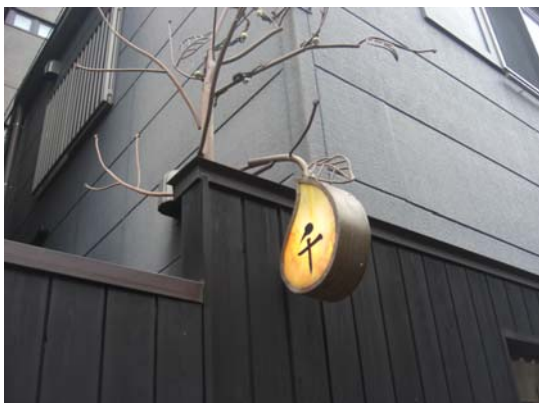
⑤ ギンレイホール：

1974年に開業した比較的新しい「名画座」で、映画通にはうれしい映画館。今もやっていた。



⑥ 神楽坂仲通り：

軽子坂を通り、神楽坂仲通りに入る。料亭「千月」の先を右に曲がって、石畳の「かくれんぼ横町」に入る。お座敷天ぷらで有名な「天孝」の横を通り、「本多横丁」を経由して、神楽坂中央通りの善国寺へ向かう。



⑦ 毘沙門天、善国寺：

大江戸三毘沙門天のひとつ善国寺がこの場所に建ち、門前町が発展したことから、神楽坂はにぎわいを見せるようになったという。



善国寺には石虎が飾られている。



⑧ 兵庫横丁

石畳の兵庫横丁へ。ここには、文士が愛したという旅館「和可菜」（現在は営業していない）や料亭「幸本」などがある。



落ち着いた雰囲気と女将の切り盛りの良さで、今井正、深作欣二、早坂暁、野坂昭如、伊集院静、山田洋次などが、ここにひきこもって執筆したそう。

⑨ 寺内（じない）公園

このあたりが神楽坂花柳界の発祥の地と言われている。



柳家金語楼と歌手山下敬二郎親子、俳優勝新太郎、芸者歌手神楽坂はん子などが寺内に住んでいた。

⑩ 筑土八幡神社

「♪まさかりかついで きんたろう……」童謡「金太郎」の作曲家、田村虎蔵がこの神社の裏手に住んでいたとのことで、境内にその歌碑がある。



石造の鳥居、境内には2匹の猿をあしらった舟型の石造庚申塔がある。



⑪ トーハン本社ビル

書籍の流通業最大手だった「トーハン」（旧「東京出版販売株式会社」）本社ビルの横を通る。



⑫ 印刷博物館：

凸版印刷が、2000年に設立した印刷文化に関する資料の蒐集と研究活動を行っている施設。



65歳以上は無料でうれしい。ただ写真は撮れない。学芸員による見所解説（15分間）を楽しみ、企画展「天文学と印刷」を楽しむ。4時からのVRシアターで、「16世紀のヨーロッパの印刷所紹介」の映画（20分）を鑑賞。暗くなり、感覚的に不安定のため眠ってしまう人もいる。

⑬ 新年会

水道橋に向かって20分ほど歩く。途中新年会に参加しない人3人と別れる。案内も終わりホッとしている案内人に感謝の乾杯をし、懇親会は始まる。店の名前のアワビも出てくる。



我々の飲む量がお店の想定外だったのか、日本酒「一ノ蔵」、白ワイン「タクン・レセルヴァ シャルドネ」が底をつく。よく飲み、新年からしっかりと懇親しました。

同窓会長でまち歩きの仲間、依氏の急逝（1月9日）を悔やみ、献杯を最後に実施しました。

以上